

2015年7月17日

国立競技場将来構想有識者会議 委員
同会議 建築ワーキング・グループ 座長
新国立競技場基本構想国際デザイン競技 審査委員長
安藤忠雄 様

神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会
info@2020-tokyo.sakura.ne.jp
http://2020-tokyo.sakura.ne.jp

新国立競技場の記者会見に関する公開質問状

さる7月16日、新国立競技場の国際デザインコンクールの審査委員長を務めた安藤忠雄さんの記者会見を視聴しました。

しかし、当会「神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会」は、会見の内容に納得しかねています。

つきましては、安藤さんに下記11点をお尋ねします。

また当会は、約1年半前に安藤さんに公開質問状をお送りしていますが、いまだご回答いただいております。

2013年12月付の公開質問状も改めてお送りしますので、あわせてお答えください。

お手数ですが、7月31日までにご返送くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、この質問状は、82,000人超の賛同人はじめ、多くの国民の疑問を背景にしておりますので、質問事項と回答内容を当会のホームページなどで公開するとともに、マスコミにも告知いたします。

1. これまで発言しなかったことについて

安藤さんは、これまで新国立競技場について公の場での発言を控え、マスコミの取材も拒否してきましたが、その理由をお教えてください。また本来出席すべき有識者会議を欠席したにもかかわらず、この時期に単独で記者会見を開いた理由をお教えてください。

2. 「ザハ・ハディド氏をはずすと国際的信用を失う」について

現行案のデザイン監修者である「ザハ・ハディド氏をはずすと国際的な信用を失う」と発言されましたが、具体的な根拠をお教えてください。国際オリンピック委員会(以下IOC)はすでに変更を認めています。またIOCが東京五輪のために定めた行動計画「アジェンダ2020」では、開催地の経済的な負担軽減を求めています。工事着工前の現時点ですでに2,520億円以上かかることが判明している現行案を進める方が、国際的信用を失うと思いますが、この点についてどのようにお考えですか。海外メディアは、現行案がIOCや五輪の招致を検討している他の国や都市に悪い影響を与えると報じています。(『ボストン・グローブ』150715)

3. 「デザインの選定まで」しか関わっていないことについて

安藤さんは、コンクールで「ザハ案を選定したところで終わり、その先は関わっていない」と発言されましたが、日本スポーツ振興センター(以下JSC)の回答によると、審査委員は競技場の竣工までJSCと契約関係にあり、助言をすることになっています。さらにコンクールの審査委員長である以前に、有識者会議の委員であり、この会議に唯一の建築の専門家として、少なくとも2014年5月の会議までは出席されています。また、有識者会議の下部組織、建築ワーキンググループの座長の立場で、この計画の根本的な問題として指摘されているコンクールの募集要項を検討し承認を与えています。安藤さんに責任があるのは、はたしてデザインの選定まで、と言えるのでしょうか。お考えをお示ください。

4. 「コストの議論をしなかった」ことについて

コンクールの審査ではコストの議論はしなかったと発言されましたが、NHK の報道によると審査委員の内藤廣さんが審査中にザハ案ではコストがかかることを指摘していました。また多くの建築家がザハ案のパース図を見れば、予算の1,300億円ではできないことはすぐに分かると指摘しています。安藤さんは、ザハ案が1,300億円ではできないことを認識できなかったのでしょうか？認識できなかった場合はその理由をお教えてください。認識されていた場合は、認識していたにもかかわらず、なぜ議論をせずにザハ案を選んだのか、その理由を教えてください。またザハ案がコスト等の問題で実現できなかったときの修正計画や次善の策については議論されたのでしょうか。

5. 私が「訊いても何も言ってくれない」について

安藤さんは、総工費に対して「もっと下がる所がある。しかし、私が訊いても何も言ってくれない」と発言されました。事業主体のJSCや他の審査委員とどのような意志疎通を図ってきたのでしょうか。NHKの報道によると、コンクール後も審査委員たちは自主的に月1回程度会合を開き、JSCや基本設計を担当する会社も参加して、現行案の修正やコスト・ダウンの方法を検討し、提言も出したそうです。安藤さんはこの会合には参加されなかったのでしょうか。参加されていない場合は、その理由をお教えてください。参加されていた場合は、どのような検討と提言をしたのか、お教えてください。

6. 「こんなに大きなものをつくったことがない」について

新国立競技場のように「大きなものをつくったことがない」と発言されました。そうであるならば、そもそも経験や実績のない安藤さんがこの計画を判断したり、審査すること自体に問題があったと言えないでしょうか？座長や委員長職を引き受けるべきではなかったと思うのですが、今振り返って、どのようにお考えでしょうか。

7. 現行案の建築的な評価について

現行案についての建築としての評価をお教えてください。安藤さんは記者会見でザハ案を選んだ理由として「ダイナミックで、流線型が斬新で、シンボリック」との評価を示されましたが、現行案ではすでにそれらの多くが失われています。それでも、この現行案を実現した方がいいと主張されるのであれば、その建築的な価値をお示してください。

8. 総工費を「調整しなくてはいけない」について

総工費2,520億円を「調整しなくてはいけない」と発言されましたが、安藤さんは建築の専門家として、現行案を維持した状態で、どの程度までコスト・ダウンできるとお考えでしょうか。「ゼネコンは儲からなくてもいい。国のために働け」と発言されましたが、仮に元請けの施工会社の利益をゼロにしたとして、どの程度の削減ができるとお考えでしょうか。また安藤さんご自身が主導して総工費を減らしたり、あるいは個人的に寄付をして総工費の捻出に貢献されるお気持ちはありますか。

9. 情報公開について

会見の最後の方で「情報を共有すること」「情報をオープンにしよう」と発言していますが、具体的にはどのような方法をお考えでしょうか？

10. 社会的信頼の回復について

今回の件で、安藤さんの社会的信用は著しく落ちてしまったと思われます。どうやって信頼を回復していきますか。新国立競技場の委員職を今後も続けるおつもりでしょうか。安藤さんのみならず、日本にいる多くの良心的な建築家も大きな余波を受けました。新国立競技場の問題によって生じた国民の建築界全体への不信感に対して、今後どのような行動をお取りになるのか、お教えてください。

11. 安倍総理の声明について

7月17日午前の段階で、安倍晋三首相は、新国立競技場の計画を抜本的に見直す方針を表明すると報道されています。菅義偉官房長官も費用圧縮のためには、総工費膨張の原因とされるキールアーチの見直しなどデザインの変更が避けられないと発言しています。

安倍総理や菅官房長官の発言について、安藤さんは、どのように受けとめていますか。